

# S U S O N O

o l . 6  
2019.8]

# このまちで叶える 自然体の暮らし



前橋移住コンシェルジュは  
あなたの夢を応援します。

移住コンシェルジュ  
鈴木正知

<https://www.facebook.com/maebashiiju/>

前橋にある企業の仕事や様々な取り組みを紹介します。  
あなたに合った“前橋での働き方”が見えてくるかも！?

ハロー！まえばし WORK

公共施設にアイディアと市民の力を！

株式会社オリエンタル群馬

「暮らし方コンシェルジュ便り」  
□ =

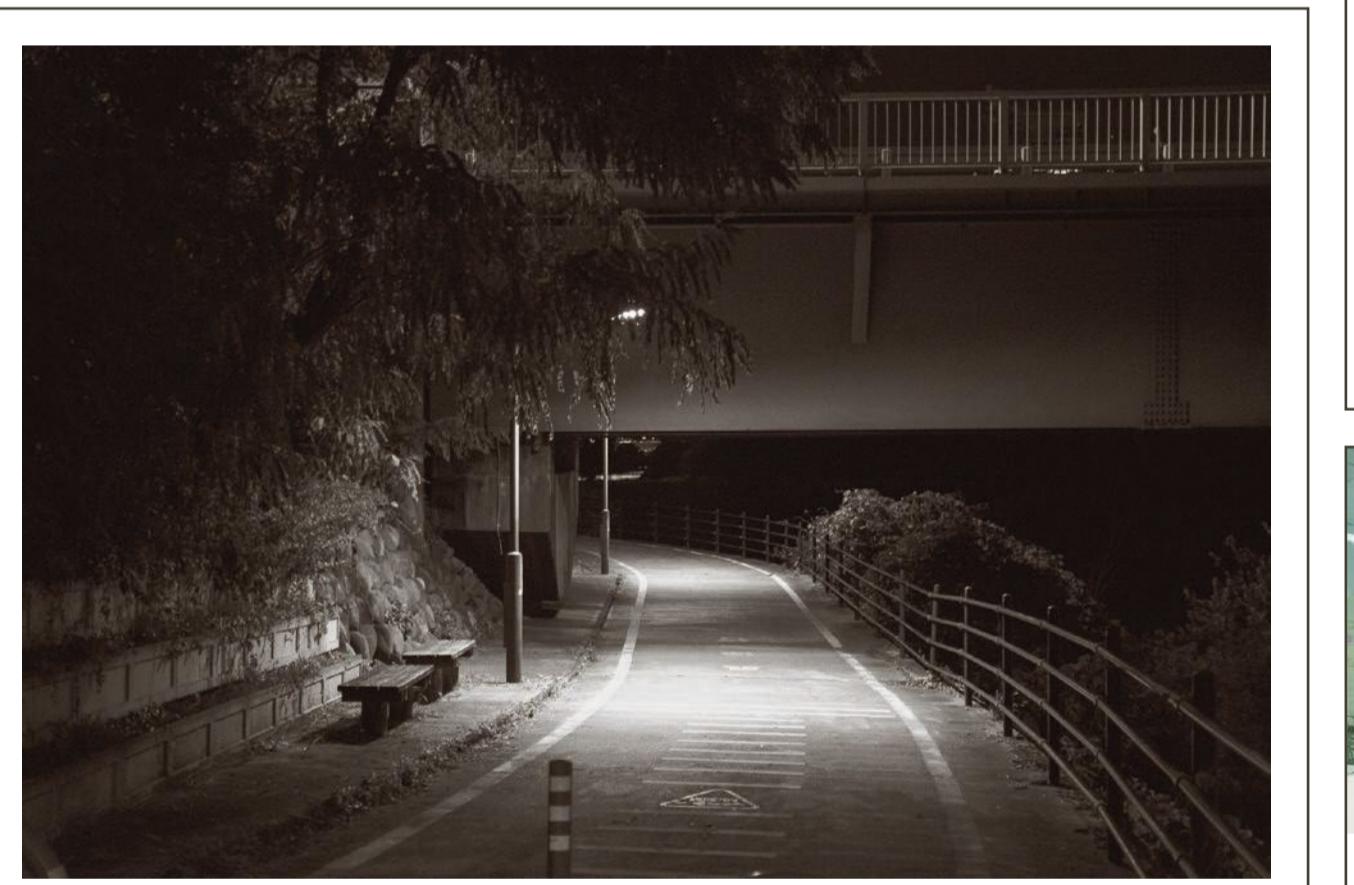
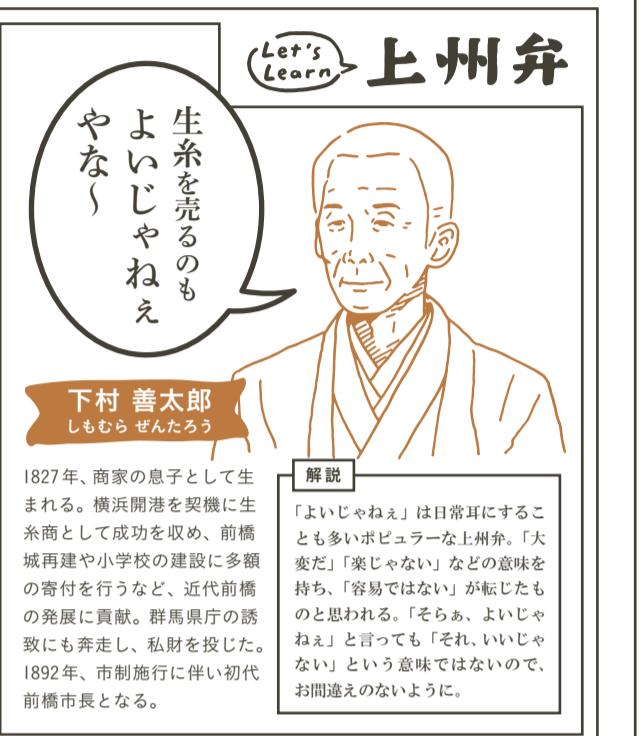
そろそろ、あなたにとつて理想の暮らし方にスイッチが入りましたか？ スイッチが入つたら一度その理想の暮らし方を私たちに教えてください。近い将来、それが手に入るかも。

前橋移住コンシェルジュは、前橋だけを見ている訳ではありません。理想はもちろん「前橋」に移り住んでもらって、あなたの思い描く『理想の暮らし方』を一緒に実現することです。だけれど、ここからが重要です。よく聞いて！ 私たちが本気でサポートしたいのは、「あなたにとって理想の暮ら

し』を実現してもらうことなす。全ての意味で飽和状態のまゝ、市・前橋に移住してもらい、「前橋市は人口増に転じたわけ」。そのためじやないんです。私たちは「オールぐんま」テーマ。自分たちの市町村のは気に留めておきつつも、『『者目線』を徹底しています。』人お一人のニーズを汲み取り、実際に考えられるかをしっかりとし、県内35市町村の手札の中

一緒に選んでいくのです。その中で山梨県や長野県、北海道を紹介し移住した方も実際にいらっしゃるくらいです。私たちにとっては、相談者がなぜ今の生活を、ひいては仕事・子育て・介護や老後に至るすべての帰路を絶つてまで（絶たずに多拠点居住もありますが）移住を考え始めたのか！をつかり拾って丁寧に聞き進めること。これが本当に重要なのです。その先にはきっと「あなただけの暮し振り」が見えてくるはずですから。まずは我々、移住コンシェルジユに一声かけてみてください。

鈴木正知（すずき まさとも）  
東京都町田市出身。上野動物園や葛西臨海水族園の飼育員、長野県戸隠イースタンキャンプ場管理人インタークリター担当などを経て、2006年に前橋市へ移住。市内23の行政区を集めて地域活動の情報共有をする「前橋地域づくり協議会」や「前橋の地域若者会議」を立ち上げて以来、前橋市の地域づくりに携わる。2015年より、前橋市の移住コンシェルジュに就任。



# 歩いき帰ろう

川を渡る 夜風が涼しくなってきたので 遠まわりして帰ろう  
草むらの中をちも いつのまにか 次の季節の序奏を奏ではじめている



*Instagram*  
@susono\_maebashi

Instagram  
@susono\_maebashi

## 取材 メモ

数年前、本業のかたわら、週一回のペースで知り合いの八百屋を手伝っていたことがある。群馬で採れた新鮮な野菜を午前中に集荷して車に積み込み、午後には東京の店頭に並べるという、珍しいスタイルの八百屋だ。初めは何もわからないまま店頭にいたが、野菜を求めるに来るお客様たちの会話から、次第に群馬産の野菜の魅力に気付きはじめた。近くには商店街やスーパーもあるのに、新鮮な旬の野菜を求めてたくさんの常連客が毎週やつて来る。その棚にすぎない農園さんの平飼い卵もあつた。竹渕さんが新たな拠点とする「IRORI場」に集まる人々は、それが目的を持ち、その実現のためにゆるやかに連帯しているようだ。JR前橋駅から車で30分程の赤城山の中腹にあるこのエリアは、広大な農地が広がり、市街地とは全く異なる環境だった。古い柱時計が時を刻む古民家には、まるで異世界のような穏やかな時間が流れている。

ほかの土地にはない、とても前橋らしい何かが、今、ここから始まろうとしていることに希望のようなものを感じた。(デザイン・殿岡涉)



 岡田 友大 さん (29)

地元は栃木です。前橋には、Jリーグの観戦などでも訪れていました。高校を卒業して前橋工科大学へ進学。大学の友人とルームシェアをしたり、学生向けシェアハウス「シェアフラット馬場川」に住んでいました。その頃、アーツ前橋の1階にある「ROBSON COFFEE」というカフェに入り浸っていて、そこで知合ったアート関係の方との縁で、4年ほど前からはアートスペース「Maebashi Works」のメンバー・住民となりました。当時そのカフェの店長だった人が前橋にオープンした「FLAT Table」では、設計を任せもらえることに。初めて一人で担当する仕事だったので貴重な経験でした。これからも建築を通して前橋の縁をもっと増やしていくたら嬉しいです。

竹渕さんのおすすめ

# Cafe Frida (カフェ フリーダ)

前橋市千代田町 2-6-1



ビールもコーヒーも、一杯から楽しめるカフェ。メニューにはステーキ、パスタ、タコライスなどの多国籍料理が並ぶ。店主の池下さんと竹渕さんは、『ノマド市』と一緒に企画していた仲もある。すぎな農園の卵を使い、この店を愛した“奇跡のシェフ”神尾哲男さんから授かったレシピによるチーズオムレツは、竹渕さんも絶賛の一品。

鶏たちが自由に運動できる「平飼い」は、自然な環境で鶏のストレスを軽減する飼育方法。黄身の色も自然な黄色で、澄んだ味がする。

てしまします。それはちょっと大変なところかも」

智子「私は東京都出身なので、前橋は空間が広いのがいいですね。空も広いし。都内でも田んぼや畑が身の回りにあるよな環境で育ちましたが、それでも都市部では目と鼻の先。人口が過密な状況を肌で感じていたので、こののんびり過ごせること空気は魅力的ですね。ただ、大都市に比べると交通が不便ですね。東京にいる時は自分が車の免許を取るなんて思いしなかつたのに、車がないとどこにもいけないので、中之条町の町営の教習所で通いました。都内にいる頃は編集の仕事をしていて一夜漬けタイプだった私にとって、やるべきことをその時やらないといけない農業に慣れるのには時間がかかりました(笑)」

今ではマイペースに楽しく暮らしているという智子さんの笑顔にはつこりしていたら、「ボーン、ボーン」と柱時計の音が古民家の中に響き始めた。

移住は自力と他力で

進「移住の際は、農業のための土地と自分たちの暮らす場所の両方を準備する必要がありました。空いてる畠を探しては近

移住は自力と他力で

進「移住の際は、農業のための土地と自ら暮らす場所の両方を準備する必要がありました。空いてる畑を探しては

隣の人に聞いて回つたり、市の農業委員会に直接聞いて交渉したりしていました。最初に倉済へ移住した時にも同じことをしていたので、25年以上経つてはいたものの要領はわかつていたんです。

それと、実際に移り住んで農業を始めたら周りの人が声を掛けてくれるようになります。前橋移住コンシエルジュの鈴木さんもその一人。移住や地域生活のサポートをしているところで、鶏舎を立てる土地はありませんかと相談に行きました。彼は本当にフットワークが軽くって。『今から農家さんのところへ一緒に行きましょう!』と言われ、勢いのままその農家へ向かつたんです。そうしたら鈴木さんの紹介してくれたその農家さんが『会合で鶏舎の土地のことを話題に出してあげるよ』と。そのおかげですぐに土地が見つかり、鶏舎を建てる事ができました』

智子「その後、私たちの住む家も見つかりました。富士見町に住んでいた友人の鈴木の途中で良さそうな空き家を見つけ、隣の人にその所有者を紹介してもらいました。富士見町に住んでいた友人の鈴木の途中で良さそうな空き家を見つけ、近隣の人にその所有者を紹介してもらいました。昭和47年頃に建った、ザ・

進「最近ね、東京都出身の元気な女の子がよく手伝いに来てくれるんですよ。丸山えりさんっていうんだけど。草木堂野菜店という、群馬の野菜を都内の店舗で販売している八百屋さんが彼女を紹介してくれました。卵の他にも野菜やお米も栽培しているので、いろいろ手伝つてもこつっています」

智子「チラシをデザインしてくれたり、撮りためた写真を本にしてくれたり。若者が関わってくれると元気もアイディアももらえてとっても楽しいですよ」

進「こういう人たちが地域の内外で出てくるように、ぼくたちも微力ながら貢献できたら嬉しいです」

---

新たな可能性を創造する場「吉城小市民室IROBI場」

前橋市立十日町中学校 174

県都前橋を眺める赤城山。その赤城山の山頂へと向かう途中、ひときわ目を引く古民家“IRORI場”が姿を現します。築130年を経過してもなお、色あせない建物の魅力に惹かれた前橋移住コンシェルジュが、「前橋での新たなチャレンジの活動拠点にしたい！」という思いから、所有者と交渉に交渉を重ね、遂に活用が始まりました。不思議なことに、活用が始まつてすぐに市民主導の新たな取組みが続々と始まりました。これまで前橋市内でくすぶっていた「めぶきの種」が、IRORI場のチャレンジをきっかけに、今続々と芽を出し始めているんです。市民一人ひとりが個性と能力を存分に發揮し、輝きを放つ“前橋らしさ”がここには詰まっています。いつかこの数々の芽が、大きな森をつくっていく。そんな可能性を感じさせてくれています。前橋で“自分らしく生きる”という大きさを、赤城に佇む古民家は教えてくれているのでしょうか。

# 榛名山から赤城山へ、

# 200羽の鶏とお引越し。



JR前橋駅から赤城山に向かうバスには、  
られておよそ30分。県道にそびえ立つ大鳥  
居をくぐつてしまらくすると、右手に瓦葺  
き屋根の立派な建物が見えてくる。市民の  
手によるリニューアルが進む「赤城山古民家  
I R O R I 場」だ。ここで今回取材したのは、  
養鶏業を中心とした兼業農家の竹渕夫妻。群  
馬県出身の夫・進さん（61）は、妻の智子さん  
(61)とともに、都内から旧倉渕村（現・高崎市  
倉渕町）へ移住し農業を営んだのち、2012  
年に前橋へやってきた。どうして彼らは、農  
業の基盤ができるがっている倉渕から前橋  
の移住を決めたのだろう。そして、実際に草  
らし始めてどんなことを感じているのだろう。  
進「1990年に、東京から群馬へ戻つて  
きました。出身は北西部の山あいにある  
旧吾妻町（現・吾妻郡東吾妻町）。6年ほ  
ど都内で福祉関係の仕事に従事したあと

の職員といった経験豊富な養育者が家庭に迎え入れるスタイルの家庭養護です。私の友人は2016年からファミリーホームを始めたんですよ。週に2日は手伝っているので、これまで専業農家でしたが、前橋に来てからは兼業農家になりました

まずは、赤城山の南麓に位置する富士見町に畑と田んぼを借りて農業を始めたという竹渕さん。4年ほど倉渕と前橋を行き来する生活をしたのちに、前橋で新たに鶏舎を作り、200羽にもなる鶏や雛たちを運んできたという。

進「農業に関して言えば、倉渕と比べると標高が半分ほど低くなりました。倉渕は標高600m以上だったので、農作物を作る環境としては非常に大きな変化ですね。標高の高い倉渕では、冬になると気温が氷点下10度くらいまで下がってしまうこともあるので、野菜が冬を越せない状況でした。また沢水がとても冷たいので、お米が生育しづらくて。一方、私たちが移り住んだ富士見町では、秋に蒔いた野菜、例えばニンジン、ブロッコリー、キャベツなんかは冬越しして春まで食べられるんですよ。反面、暑いのが苦手な鶏には、前橋の猛暑はかなり辛いでしょうね。暑すぎると産卵する卵の数が目に見えて落ち

